

令和元年度 調布市立北ノ台小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善においては、「対話」を重視した話し合い活動を取り入れた授業を実施することができた。ねらいを明確にした「対話」にする必要がある。 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着においては、習熟度別指導の充実や補習教室の実施によりある程度の成果が見られたが、東京ベーシックドリル診断テストでは、平均正答率が70%に満たないなど課題が見られた。 プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付ける学習活動においては、各学年で実践することができた。プログラミング教育のねらいを踏まえて、教科のねらいを達成することについて課題が残った。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たち同士が話し合う姿が頻繁に見られ「対話」が定着している。 先生がどの子の意見もしっかり受け止め、一人一人の意見を大切にしている。一斉授業がしっかりと成立していて素晴らしい。 補習教室では、参加する子供たちは、初めのうち嫌がっていたが、できるようになるのが嬉しいようで今は意欲的に参加している。子供たちができる喜びを感じているのが素晴らしい。 プログラミングの学習を通して、児童が学び合いをしていた。プログラミング教育の大切さを実感した。 プログラミング教育は今後必要になる力を育むのに有効であると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度校内研究の科目を国語科として、「対話」を取り入れた授業展開の研究を進めていく。また、OJTを活性化させ教員の授業力向上を図る。 東京ベーシックドリルの診断結果の分析を実施後速やかに行い、児童の実態を全教員で把握する。採点後の答案を児童に速やかに返却して、個に応じた「解説・練習シート」を活用し、学び残り0を目指す。 今年度研究をした成果を生かし、プログラミング教育を推進していく。プログラミング教育全体計画、年間指導計画を作成して実践する。 	A
健全育成	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」を核とした基本的な生活習慣の定着については、指導を徹底したことで、かなり定着させることができた。靴箱の靴をそろえることは、高学年はしっかりできていたが、低、中学年はできていなかった。 「いじめをしない、させない学級風土の醸成」については、全校朝会で話をするとともに、いじめについて考えさせる授業を年間3回行ったことで、達成することができた。 不登校児童対応委員会を定期的に開催したことで、不登校傾向がある児童の登校日数を改善することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内での挨拶はとてもよくできている。家庭が落ち着いていることの表れだろう。 地域で遊んでいる子たちを多く見かけるが、外では不審者対策が行き届いているせいか学校内よりも挨拶は少ないように感じる。 先生の指導が行き届いており、生活にメリハリがある。 トラブルが起きたときの先生の対応がよく、子供たちが安心して生活できている。 外部の機関とも連携をとって不登校となっている児童のケアをしてほしい。 不登校になっている児童はもちろんだが、家庭も大変だと思うので何らかの支援が必要であると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 校長が入学式、始業式に挨拶の大切さについて話をするとともに、4月の保護者会においても説明をすることで、誰もが気持ちの良い挨拶をできるようにする。 いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめについて常に組織的に対応できるようにする。 不登校児童対応委員会を引き続き定期開催するとともに、関係機関との連携を強化し家庭への働き掛けをすることで、不登校児童の減少を図り、新規の不登校児童が出ないようにする。 	B
健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「体力テストを生かした授業改善」については、体力テストの結果の分析が十分にできておらず、授業改善が図られなかった。体力テストの結果についても昨年度の数値を上回った学年が2学年にとどまった。なわ跳び週間の実施においては、カードの活用や教師の声掛けにより、大なわ、短なわともに児童に意欲的に取り組ませることができた。 「食に関する指導の充実」においては、食物アレルギー対応マニュアルに基づいた研修を行ったことで、児童を含めた緊急時の対応力を高めることができた。また、季節の給食や行事食に加え、オリパラ教育の一環で児童が考えた世界各国の食事を給食で出すなどとして、食の指導の充実を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの運動をする機会が減っている。学校も頑張っているが、家庭での意識が大切である。 ゲームの影響がとても大きいと感じている。運動離れの要因の一つだろう。 休み時間に先生が校庭に出て子供と遊ぶ姿が見られた。とてもいいことだと思うが、いつもいつもというのは無理がある。学校、家庭、地域が協力して運動に親しむ機会を増やしたい。 アレルギー対応については、とても細やかに丁寧に行われていると感じる。 給食はいつ食べても大変おいしい。メニューも多彩でよく工夫されている。家で食べることがない食材を給食で食べることができるのはとても良いことだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育部会が体力テストの結果を分析し、全教職員で結果を共有する。 ねらいを明確にし、運動量を確保した体育授業を行う。 5年生で行っていたスマホ・ケータイ教室を4年生で実施し、スマホやゲームが身体に及ぼす影響について理解させる。 新たに導入される紙パック牛乳の処理について研修を行い、適切に対応できるようにする。 食物アレルギー対応委員会を定期的に行い、アレルギー対応を適切に行う。 	B
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校、学年、学級の実現については、年間を通した学校公開を実施したことで、推進することができた。学級だよりを定期的に発行することについては、100号以上発行する学級と3号しか発行できない学級があるなど差が出てしまった。 地域学校協働本部を立ち上げ、学習支援員、ボランティアの延べ活動人数が646人に達するなど活動が活発化し、連携を図ることができた。地域を学習材とした授業の充実や地域の人定資源の有効活用を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と家庭との間に壁がなく、相談しやすい雰囲気がある。相談しても無駄だと思うことがない。 困ったことがあると相談できる人が多くいる。担任だけではなく、養護の先生やカウンセラーなど、また長年勤務している先生もいるので安心である。先生方の人柄がよく、相談しやすい。 北ノ台小は地域と一体化している。学校が地域の声を聞いてくれる。地域学校協働本部の活躍も素晴らしい。 地域の方が学校に関わることで元気が湧き、子供も地域の良さに気付くという相乗効果が見られる。 地域が大変協力的である。北ノ台小のためなら頑張ろうとみんなが思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開日、授業参観を増やし、保護者や地域の方に月に一度は学校に来る機会を設けることで開かれた学校を一層推進する。 保護者対応に関するOJTを実施し、保護者との連携をスムーズに行えるようにする。 地域学校協働本部の活動について教職員の理解を進めることで、地域を学習材とした授業を一層充実させる。 	B
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 情報やICT機器を適切に活用する能力の向上においては、タブレット、プロジェクターを活用した授業を1日1授業コマ数以上行うことを目標に取り組み、84%の学級で目標を達成することができた。 年2回の読書週間では、教員による読み聞かせやおすすめの本の紹介などをして、読書活動を推進することができた。司書と連携して学校図書館を有効活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今では、どの学級でも当たり前のようにICT機器が活用されている。児童のノートをタブレットで撮影して、プロジェクターに映し出すなど効果的に使われている。 家庭での読書習慣が無くなりつつあるのではないかな。子供たちにだけではなく、家庭への呼びかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報活用能力全体計画、年間計画を作成し、児童が授業でICTを効果的に活用できるようにする。 児童用タブレットの活用がスムーズにできるように研修会を行う。 読書週間の内容の見直しを行う。国語の読書単元と連動させ効果的な活動とする。学校だよりや学校HPを通して読書の魅力を発信する。 	C